

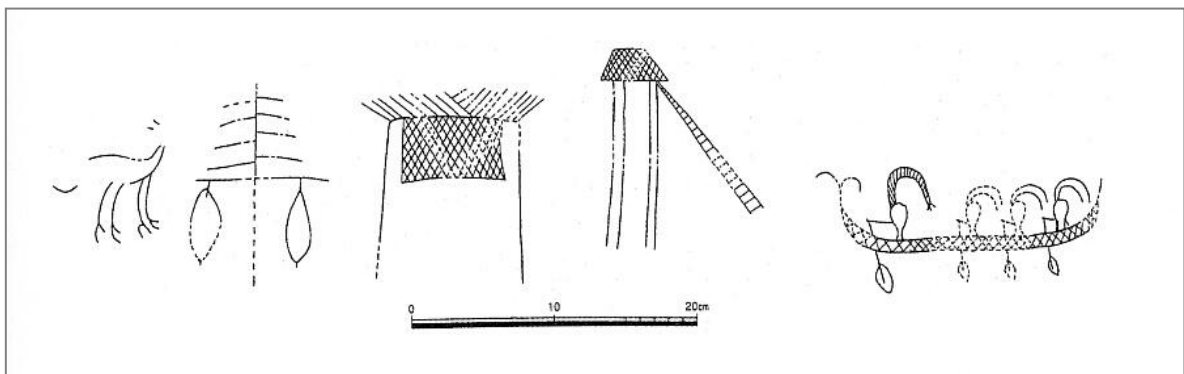
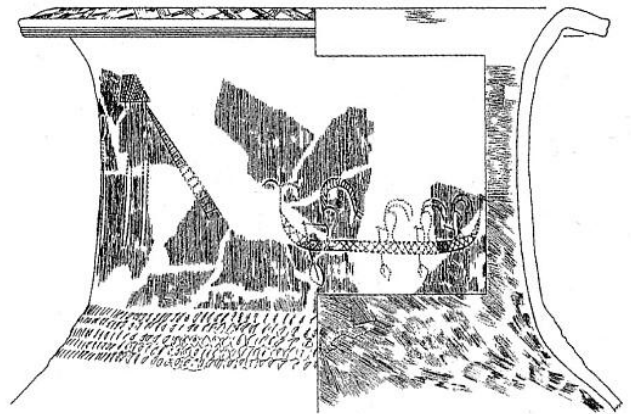
すみ だ い せき
角 田 遺 跡 (県指定保護文化財)

角田遺跡は米子市淀江町の稲吉地区の水田下に包蔵されている弥生時代中期の遺跡です。遺跡の性格は不明ですが、へら描の絵画土器片が見つかり注目されました。土器片を復元すると高さ約150cm、口径約50cmの大型の壺形土器です。

この壺の頸部にぐるりとへら描の絵が描かれており、六重の同心円(太陽?)、鳥の羽をつけて舟を漕ぐ人物、2棟の建物、木にぶらさげられた物体、動物などです。全国的にはかなりの数の絵画土器が見つっていますが、この土器のように多種多様な絵が描かれたものは非常に珍しいものです。

舟の絵はゴンドラのような形の舟と鳥の羽を頭につけた3人以上の漕ぎ手が櫂をもって漕いでいます。建物は長い梯子が架けられた高床の高層の建物です。もう一棟は草ふきの屋根を表現したものです。建物の隣には木が描かれ、枝に2つ紡錘形のものがぶら下げられ、銅鐸ではないかと考えられています。動物は、鹿のようすがはっきりしません。

これらの絵は、豊作の祈り、収穫への感謝など「まつり」に関する物語を表したもののか、または湖沼が広がっていた淀江平野の村の情景を描いたものと推察されています。



すみだ 遺跡 絵画土器